

2026年7月31日

2027年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード:2053
ホームページ <https://www.chubushiryō.co.jp/>
お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部

目次

27.3期 1Q 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

通期見通し

◇ 今後の見通し①②	16-17
◇ 株主還元計画	18

その他

◇ コーポレートガバナンスコード対応	20
◇ トピックス①②	21-22
◇ 参考資料	23

27.3期 1Q 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

通期見通し

◇ 今後の見通し①②	16-17
◇ 株主還元計画	18

その他

◇ コーポレートガバナンスコード対応	20
◇ トピックス①②	21-22
◇ 参考資料	23

連結経営成績

前年同期比で増収増益。特に不動産売却益により純利益が大幅に増益 (単位:百万円)

	通期計画	26.3 1Q	27.3 1Q	前年同期比	計画進捗率
売上高	221,000	52,279	56,291	+4,011	25.4%
飼料	201,000	47,917	49,867	+1,950	24.8%
その他 ※1	20,000	4,362	6,423	+2,061	32.1%
営業利益	5,900	1,114	1,232	+118	20.8%
経常利益	6,200	1,334	1,600	+265	25.8%
セグメント利益 ※2	10,100	1,439	5,101	+3,662	50.5%
(不動産売却益調整後) ※3	(6,986)	(1,439)	(1,987)	(+548)	(28.4%)
飼料	5,700	1,178	1,267	+88	22.2%
その他 ※1	1,100	231	460	+228	41.8%
調整額 ※4	3,300	28	3,373	+3,344	102.2%
当期純利益	6,900	1,024	3,466	+2,441	50.2%
(不動産売却益調整後) ※3	(4,757)	(1,024)	(1,324)	(+299)	(27.8%)
設備投資額	3,900	721	575	△145	14.7%
減価償却費	3,300	714	737	+23	22.3%

飼料セグメント
▶ 10-13ページ 参照
その他セグメント
▶ 14ページ 参照

売上高 増収

▶ 畜産飼料の平均販売価格の上昇等により飼料セグメントが増収
▶ 鶏卵販売の売上高増加によりその他セグメントも増収

営業利益 増益

▶ 次ページで説明

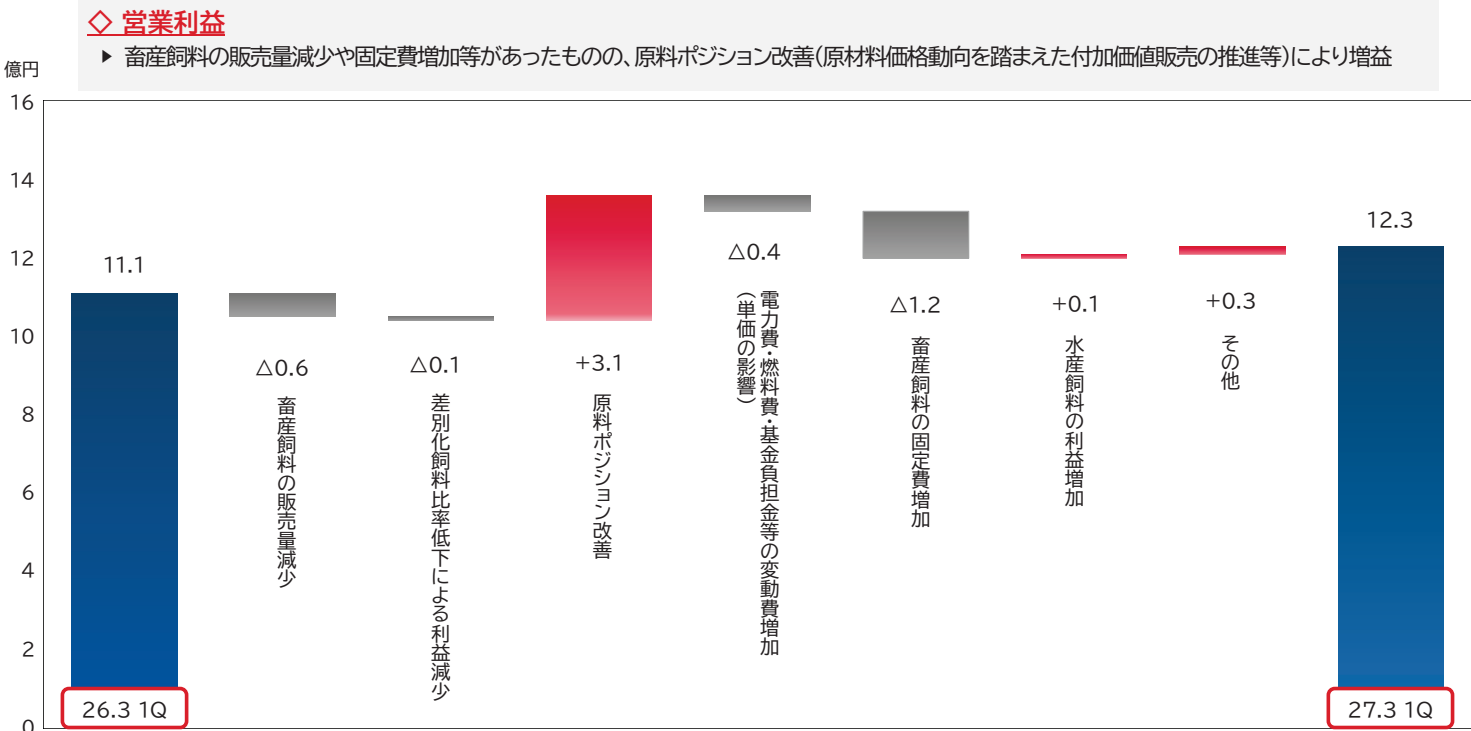
セグメント利益・調整額

▶ 不動産売却益等の特別利益増加が大きく寄与
※資産効率の向上を図るため横浜市の物流倉庫賃貸物件を譲渡(26年1月30日に公表)

※1. その他セグメント: 鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等
2. セグメント利益: 税金等調整前当期純利益

3. 不動産売却益調整後: 不動産売却益を除外した数値
4. 調整額: 各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

営業利益の増減要因



5

連結財政状態

27.3期 1Q 要約連結貸借対照表

(単位:億円)

流動資産	701 (+21)	負債	347 (△13)
現預金	121 (+3)	買掛金	162 (+5)
売上債権	400 (+5)	有利子負債	73 (△20)
たな卸資産	131 (+8)	DEレシオ 0.10倍(△0.03倍)	
流動比率 299.9%(+28.1pt)		純資産	750 (+22)
固定資産	396 (△13)	株主資本	691 (+24)
有形	265 (△6)	その他包括利益	57 (△2)
無形	3 (△0)	非支配株主持分	1 (+0)
投資その他	127 (△6)	自己資本比率 68.3 %(+1.5pt)	
総資産	1,097 (+8)	負債・純資産	1,097 (+8)

※()内の数値は、26.3期末との比較

[参考]DEレシオ:負債資本倍率。有利子負債が自己資本の何倍かを計算した数値

6

配合飼料原料の約90%が輸入原料。原料割合ではとうもろこしが約50%、大豆油粕が約15%を占める

◇ 主要原料のシカゴ相場

- ▶ とうもろこしは26年6月以降に相場が下落し、前年同期を下回る
- ▶ 大豆油粕は25年10月以降高値で推移し、前年同期を上回る

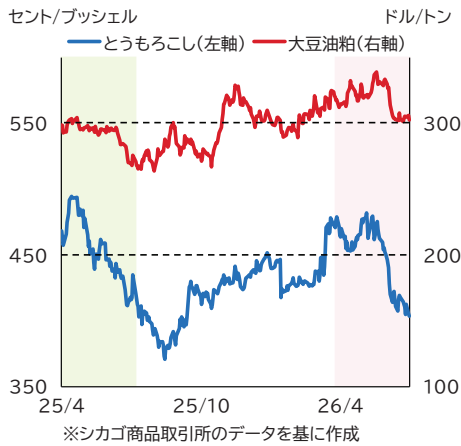
◇ 為替相場

- ▶ 日米金利差や世界的な地政学リスクの高まりによるドルへの資金集中が進み、前年同期より大幅に円安

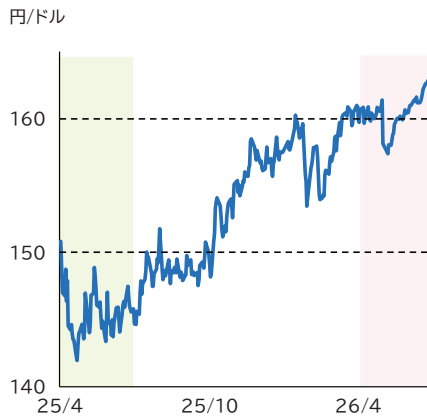
◇ 主要原料の通関価格

- ▶ とうもろこしは円安により、前年同期を上回る
- ▶ 大豆油粕は相場の上昇に円安も相まって、前年同期を大幅に上回る

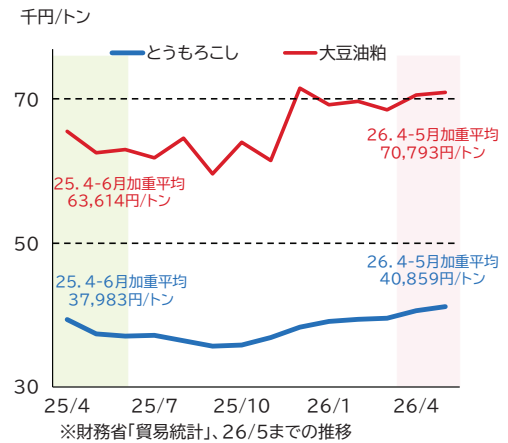
とうもろこし及び大豆油粕の相場価格推移



為替相場の推移



とうもろこし及び大豆油粕の通関価格推移



7

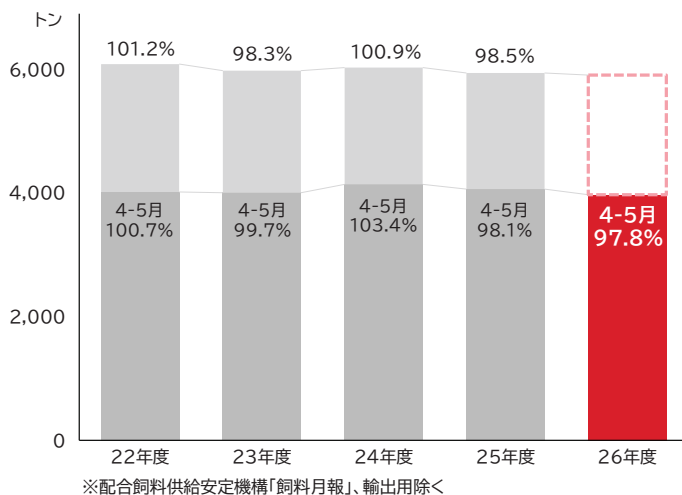
◇ 本年度の畜産飼料の市場流通量

- ▶ 家畜家さんの疾病や農場事故等の影響もあり、4-5月対比では下回る

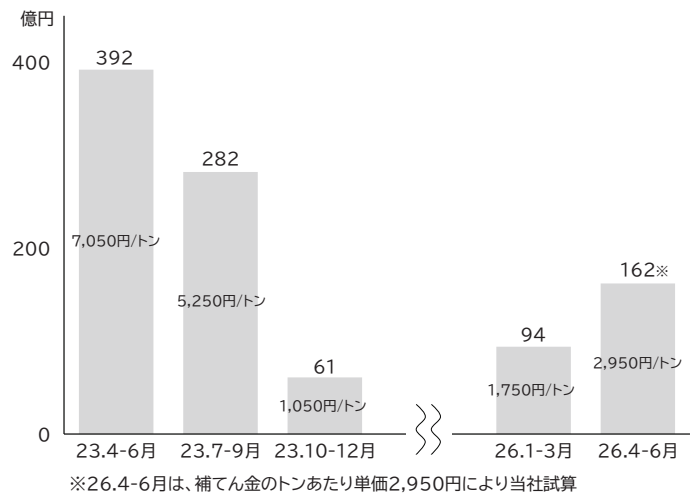
◇ 配合飼料価格安定基金の畜産家への補てん金交付状況

- ▶ 26年1-3月は、23年10-12月以来の補てん金交付
- ▶ 26年4-6月も交付され、2四半期連続となる

畜産飼料 4-6月市場流通量の推移



畜産家への補てん金交付状況



8

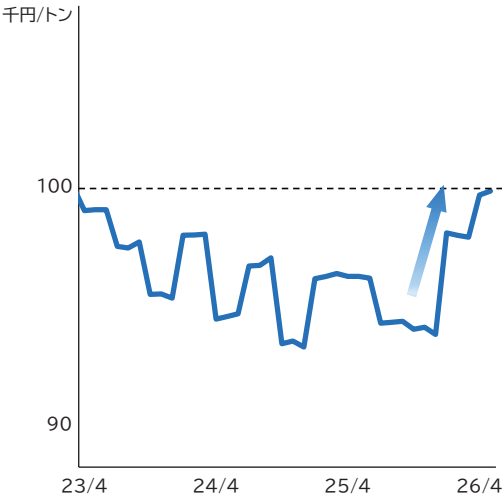
◇ 配合飼料価格

▶ 26年1月以降、原材料価格を反映し上昇

◇ 畜産物相場

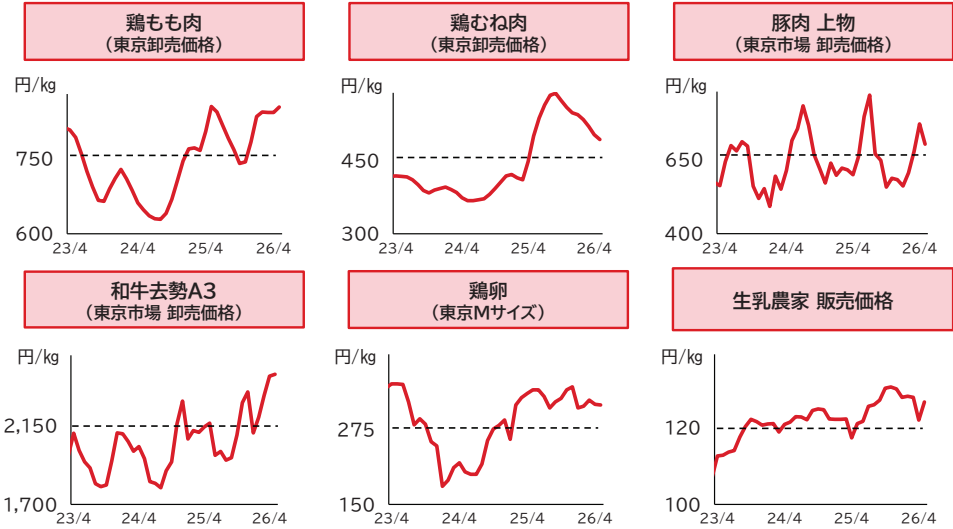
▶ 全ての畜産物で高水準を維持

配合飼料価格の推移



※1.配合飼料供給安定機構「飼料月報」
2.全畜種加重平均(袋物、バラ)工場渡価格、26/5までの推移

畜産物相場



※(独)農畜産業振興機構「国内統計資料」、26/5までの推移

飼料セグメントの状況① 畜産飼料の動向

項目	前年同期比	要因	計画との比較
畜産飼料販売量	↓ △0.6億	◇ 前年同期比98.5% ▶ 市場流通量の減少及び価格競争激化の影響により減少 ◇ ブロイラー用飼料は大幅に減少も、その他畜種は増加 ▶ 養牛用飼料において、製法や原料を工夫した飼料により、成績改善や飼育作業の効率化に貢献し、堅調に推移 ▶ 採卵鶏用飼料において、成績やコスト改善の提案が評価され増加	☁ 通期計画 101%
環境に配慮した飼料販売量指数 ※24.3期1Qの販売量を100とした指数	↓	◇ 24.3期1Q対比137%(前年同期実績141%) ▶ 価格志向が強まったことにより、販売量は伸び悩む ▶ 採卵鶏用飼料において、窒素の排出を抑制する飼料のリニューアルや提案が進み、販売量が増加	☁ 通期計画 150%
差別化飼料の売上高構成比	↓ △0.1億	◇ 27.3期1Qの構成比45.1% ▶ 採卵鶏用及びブロイラー用飼料において、価格競争が激化したことで汎用化が進み、販売量は伸び悩む ▶ 養豚用飼料において、消化吸収がしやすい形状の飼料が評価され、販売量が増加	☁ 通期計画 46.0%

☀...計画達成 ☁...計画未達

飼料セグメントの状況② 原料ポジションの状況

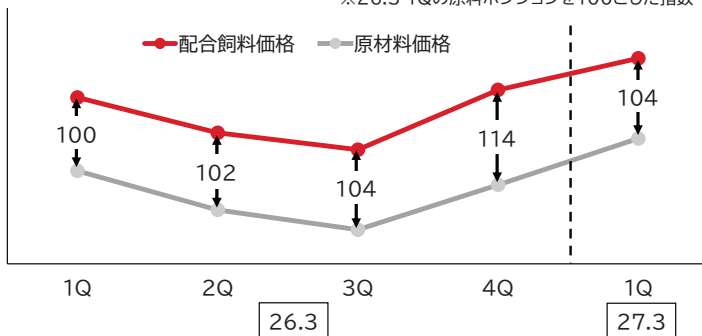
CHUBUSHIRYO CO.,LTD

項目	前年同期比	要因	計画との比較
原料ポジション	 +3.1億	◇ 前年同期比で改善 ▶ 原材料価格動向を踏まえた付加価値販売を推進 ▶ 配合設計の見直しや価格競争力がある原料の活用を実施 ▶ 気温や湿度等の外的要因の変化に合わせ、製造加工条件の最適化に取組み、歩留まりを改善	

☀️...計画達成 ☁️...計画未達

④配合飼料価格及び原材料価格の推移

※26.3 1Qの原料ポジションを100とした指数



原料ポジションとは

配合飼料価格と原材料価格の差のこと

- ①配合飼料価格... 原材料価格の動向により四半期毎に改定し付加価値販売の推進により変動
- ②原材料価格... 穀物相場や為替、海上運賃等の外部要因と製造工程における改善及び配合設計の見直しにより変動
- (例) ①と②の差が前期比でプラスとなる場合、原料ポジション改善

11

飼料セグメントの状況③ 変動費及び固定費の状況

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

項目	前年同期比	要因	計画との比較
変動費	 △0.4億	◇ 前年同期比で増加(利益を0.4億円押し下げ) ▶ 電力費単価は下落、燃料費単価はほぼ横ばい ▶ 外注作業費単価及び運賃単価(飼料運搬)が上昇 ▶ 基金費単価は上昇	
固定費	 △1.2億	◇ 前年同期比で増加(利益を1.2億円押し下げ) ▶ 前期4Qに設備投資が増加したことにより減価償却費が増加 ▶ 安定供給を果たすため、工場老朽化対策を計画的に実施し、修繕消耗品費が増加	

☀️...計画達成 ☁️...計画未達

12

飼料セグメントの状況④ 水産飼料の動向

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

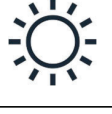
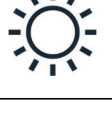
項目	前年同期比	要因	計画との比較
水産飼料の利益改善	 +0.1億	◇ 利益率が大幅に下落したものの、販売量が大幅に増加したことや水産物価格が堅調に推移したことで増益	
利益率		◇ 利益率は大幅に下落 ▶ 主原料である魚粉価格の高騰に伴い原材料費が上昇 ▶ 飼料価格値上げ前の販売量増加により悪化	
販売量		◇ 前年同期比161.9% ▶ 飼料価格値上げ前の需要増加により、販売量は増加 ▶ ハマチ及びウナギ用のペレット製品が堅調に推移	 通期計画 105%
環境に配慮した飼料販売量指数 ※24.3期1Qの販売量を100とした指数		◇ 24.3期1Q対比139%(前年同期実績93%) ▶ 魚粉価格高騰により、マダイ用を中心とした低魚粉及び無魚粉のニーズが高まり、販売量が増加	 通期計画 160%

☀…計画達成 ☁…計画未達

13

その他セグメントの状況

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

項目	前年同期比	要因	計画との比較
その他セグメント	 +2.3億	◇ 各事業の販売量増加により、前年同期を上回る	
鶏卵販売		◇ 関東地区を中心に特殊卵の配荷増加や商品ラインナップの充実により販売量が増加	
肥料		◇ 販売量は、生産者における今後の供給不安や値上げ前の需要増により、製品引取が活発化し、大幅に増加	
畜産用機器		◇ 海外の販売台数増加等により、利益は大幅に増加	
保険代理業		◇ 主力の畜産保険の販売件数が堅調に推移	

☀…計画達成 ☁…計画未達

14

27.3期 1Q 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

通期見通し

◇ 今後の見通し①②	16-17
◇ 株主還元計画	18

その他

◇ コーポレートガバナンスコード対応	20
◇ トピックス①②	21-22
◇ 参考資料	23

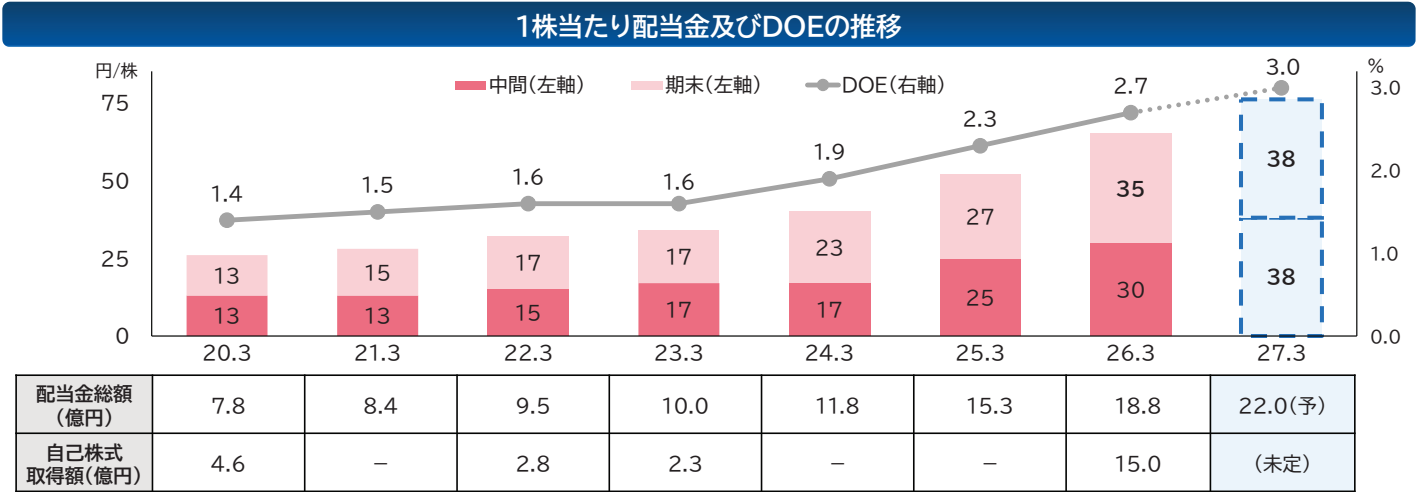
今後の見通し①

項目	見通し
畜産飼料販売量	◇ 以下の飼料の拡販等により、通期計画は達成できる見込み ▶ 製法の工夫や独自原料の利用により、成績改善や飼育作業の効率化に貢献する養牛用飼料 ▶ 鶏の骨を丈夫にし、健康に育てることができるブロイラー用飼料 ▶ 各畜種において取組みを進めている、暑熱対策や環境に配慮した飼料 ◇ 動物の疾病・廃業等により減少する可能性あり
差別化飼料の売上高構成比	◇ 以下の飼料の拡販等により、通期計画は達成できる見込み ▶ 成績改善や飼育作業の効率化に貢献する養牛用飼料 ▶ 差別化飼料に該当する暑熱対策飼料や環境に配慮した飼料
原料ポジション	◇ 2Qは1Qより改善する見込み ◇ 穀物相場や為替、海上運賃の状況により、変動する可能性あり
変動費・固定費	◇ 中東情勢の影響により上昇が見込まれるものの、計画通りに推移する見込み

項目	見通し
水産飼料	◇ 販売量は、通期計画を達成できる見込み ▶ 環境に配慮した飼料は、低魚粉及び無魚粉飼料のニーズが強まり、堅調に推移する見込み ▶ 市場流通量は、魚粉の価格高騰及び枯渇に伴う製品の供給量減少、赤潮の被害等により伸び悩む ◇ 利益率は、魚粉価格が高騰するものの、値上げの実施により改善 ▶ 原料価格は、今後の魚粉動向や為替と海上運賃の影響で変動する可能性あり
その他セグメント	◇ 中東情勢の影響により、鶏卵販売は資材・運賃の高騰が見込まれ、肥料は原料や燃料(A重油)の供給不安及び価格高騰が見込まれるものの、コスト削減や付加価値販売の推進により計画通りに推移する見込み ◇ 畜産用機器及び保険代理業は、課題への取組みを継続し、販売量、利益ともに計画通りに推移する見込み

通期計画の達成を目指す

株主還元方針	配当・自己株式取得の状況
▶ 安定配当を維持向上 ▶ 持続的な成長を支える成長投資や設備投資、内部留保とのバランスを取り、純資産配当率(DOE)を段階的に引き上げ、27.3期にDOE3%以上を目指す ▶ 株価水準や財務状況等を勘案して、自己株式の取得を機動的かつ積極的に実施	◇ 配当金 ▶ 26.3期 ⇒ 期末35円/株(5円増配)、年65円(DOE2.7%) ▶ 27.3期 ⇒ 中間・期末とも38円/株、年76円(DOE3.0%)を予定 ▶▶ 7期連続増配予定



27.3期 1Q 決算レビュー

◇ 連結経営成績	4
◇ 営業利益の増減要因	5
◇ 連結財政状態	6
◇ 事業環境①②③	7-9
◇ 飼料セグメントの状況	
① 畜産飼料の動向	10
② 原料ポジションの状況	11
③ 変動費及び固定費の状況	12
④ 水産飼料の動向	13
◇ その他セグメントの状況	14

通期見通し

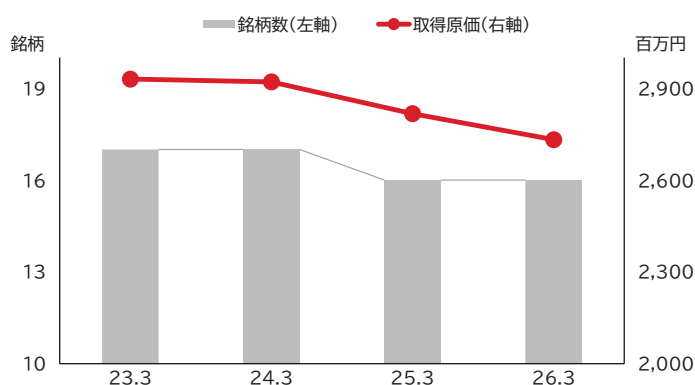
◇ 今後の見通し①②	16-17
◇ 株主還元計画	18

その他

◇ コーポレートガバナンスコード対応	20
◇ トピックス①②	21-22
◇ 参考資料	23

コーポレートガバナンスコード対応

政策保有の上場株式保有状況



- ◇ 毎年、取締役会で個別に保有目的との整合性、保有による便益やリスクが資本コストに見合っているか等を具体的に精査
- ◇ 保有の意義が乏しいと判断した株式については、縮減を進める
- ▶ 27.3期は、14銘柄を継続保有、2銘柄を随時縮減の方針

人材育成方針

- ◇ 多様性確保のため、社会人採用を含め、性別・国籍を問わず、視点・経験等が異なる人材を積極的に採用
- ◇ 階層別研修、課題別研修の実施により、従業員の専門能力と労働生産性を向上
- ◇ 女性・外国人・社会人採用者にかかわらず、能力・実績等を総合的に評価し、管理職として相応しい人材を登用

指標と目標

指標	目標	2024度実績	2025度実績
採用者に占める女性の割合	30% (2026年度～2028年度平均)	28% (2022年度～2024年度平均)	28% (2023年度～2025年度平均)
管理職候補者である係長級の役職者に占める女性の割合	5% (2028年度)	2% (2024年度)	4% (2025年度)

※当社有価証券報告書より抜粋

トピックス①第21回食育推進全国大会参加 ※5年連続参加 ㊦ CHUBUSHIRYO CO.,LTD

食育月間の6月に、農林水産省が主催するイベント
今年は6/6(土)に栃木県で開催され、約16,000人が来場



飼料に触る体験や、飼料にまつわるクイズを実施



黄身の色が異なる卵を展示



今後も食育を通じた社会貢献活動への取組みを強化

21

トピックス②㊦枝肉勉強会開催

㊦ CHUBUSHIRYO CO.,LTD

当社としては初開催

開催日 2026年11月13日 金曜日

会場 横浜市中心卸売市場食肉市場

㊦枝肉勉強会とは

- ▶ 生産者様が丹精込めて育てられた肉牛を持ち寄り
その生産に係る取組みや枝肉の評価を通して
生産者様と販売者様、双方向に情報を発信し
肉牛流通の一層の発展を目指す

当社が開催することの意義

- ▶ 独自の取組みや飼養技術の共有による生産性向上の支援
- ▶ 時代のニーズに沿った飼料開発と付加価値の創出
- ▶ 特性ある飼料による肉質向上効果の見える化



22

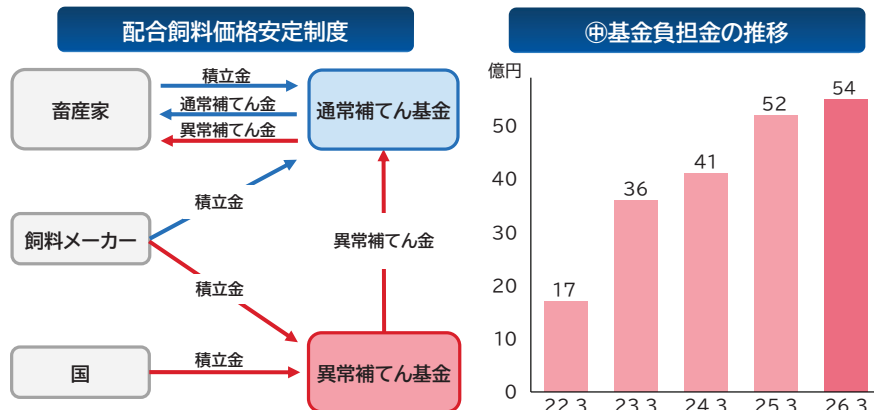
配合飼料価格安定基金制度とは

◇ 目的

- ▶ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

◇ 内容

- ▶ 通常補てんと異常な価格高騰時に通常補てんを補完する異常補てんの2段階の仕組みにより畜産家へ補てん金を交付
- ▶ 通常補てんは畜産家と飼料メーカーが積立て
- ▶ 異常補てんは国と飼料メーカーが積立て
- ▶ 積立金の額は財源により増減



差別化飼料とは

- ◇ お客様との取組みの中で開発
- ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

環境に配慮した飼料とは

- ◇ 環境負荷の軽減、動物の飼育環境の改善、海洋資源の保護等につながる飼料
- ◇ 従来の飼料と比べて鶏糞や豚糞の発生量を低減する飼料、魚粉を使わない水産飼料等がある

